

2026年1月27日

山梨県丹波山村

「丹波山式ゆるイエナ」で教育移住を推進
—イエナプラン教育をベースに、地域と共に子どもを育てる新たな教育モデルを創出—



山梨県丹波山村は、村が目指す教育のコンセプトとして「丹波山式ゆるイエナ」を掲げます。教育の魅力向上により、「二拠点居住型親子山村留学」を推進し、子育て世代から選ばれる村づくりを目指す考えです。本取組は、ドイツ発祥の教育手法「イエナプラン教育」をベースに、丹波山村の小規模校・地域特性を生かしながら、地域と学校が連携して子どもを育てる新しい教育の在り方を実践するものです。

「丹波山式ゆるイエナ」は、個性を尊重し、自立と共生を育むイエナプラン教育の理念を踏まえつつ、現場に過度な負担をかけることなく、できる範囲で柔軟に取り入れていく丹波山村独自のアプローチです。丹波山村の小中学校では、その少人数の環境を生かし、異学年での合同の取組や自由進度学習など、すでにイエナプラン教育で重んじられている「インクルーシブな思考に向けた養育」や「対話」「創造性」などを実践した特色ある教育が行われています。

丹波山村では1992年に始まった親子山村留学制度により、これまで100人近い子どもとその家族を迎えてきました。今年度も小学校児童18人中13人、中学校生徒6人中4人が同制度を利用して移住してきた子どもたちです。一方で、山村留学の動機は、丹波山村の特色ある教育の取組と結びついていないことから、今後、「丹波山式ゆるイエナ」と「二拠点居住型親子山村留学」による、魅力的な教育とアクセスの良さを売りにした、首都圏からの人の呼び込みを促進します。

「ゆるイエナ」の名称は、日本におけるイエナプラン教育の発展・普及を推進する「日本イエナプラン教育協会」から承諾を得ており、今後も同協会と教育的連携を深めながら、丹波山村ならではの魅力ある教育環境づくりを進めていく予定です。

【本件に関するお問い合わせ先】

丹波山村地域創造課 地方創生室

〒409-0300 山梨県北都留郡丹波山村 2450 番地

TEL: 0428-88-0211 E-mail: sousei@vill.tabayama.yamanashi.jp

丹波山村について

山梨県の北東部、東京都と埼玉県に接する人口 500 人の関東圏で最も小さな村。総面積の 97% を山林が占め、村全体が秩父多摩甲斐国立公園及び甲武信ユネスコエコパークに指定されています。多摩川の源流、東京都の水源地の豊かな自然環境を守り続けています。

1992 年に始まった「親子山村留学」、2014 年に受け入れを開始した「地域おこし協力隊」制度により、移住者の受入を継続してきた結果、村の人口の 2 割を移住者が占め、また、移住情報誌のランキングで首位を獲得するなど、「住みたい村」として注目されるようになりました。

東京都心から車で約 2 時間半の距離に位置し、首都圏との行き来がしやすいことから、国が推進する「二地域居住」の実践の場としても需要があり、2024 年に山梨県内で初めて「特定居住促進計画」を策定しました。

イエナプラン教育と「丹波山式ゆるイエナ」

丹波山村が掲げる新しい教育のコンセプトは、ドイツ発祥の教育手法「イエナプラン教育」に由来します。イエナプラン教育は、個性を尊重し、自律と共生を育む教育法で、異年齢の子どもたちが同じ場で学び、自ら学習計画を立てるのが特徴です。文部科学省が掲げる「個別最適な学び」や「協働的な学び」にも合致しており、これから社会を生きる力を育む教育として注目されています。

しかし、完璧なイエナプラン教育を丹波山村のような小規模校に導入することは、負担が伴います。そこで、丹波山村では日本イエナプラン教育協会に掛け合い、イエナプラン教育のエッセンスを汲みつつ、現場に過度な負担をかけず、できる範囲で柔軟に取り入れていくアプローチとして、「ゆるイエナ」という新しい発想を認めていただきました。

丹波山村では、地域と学校が連携しながら教育を支える土壌がすでに整っており、この「共に育てる文化」こそが「ゆるイエナ」を支える最大の強みです。「丹波山式ゆるイエナ」により、授業の一部や放課後子ども教室、地域行事などを通じて、学校だけでなくコミュニティ全体で子どもたちの学びを育てていきます。世界的に支持される理想を志しながらも、地域の現実に寄り添うこの取り組みは、全国の小規模自治体における教育改革の新たなモデルとなる可能性を秘めています。